駒大生社会連携プロジェクト ニュースレター

SEED（シード）

Vol.003
2022.8月

夏季休業期間も各プロジェクトは活動を行っています！
今号では、7.8月の活動内容を5つのプロジェクトのメンバーからレポートをしてもらいました。

〔世田谷区部門〕

ＰＢＬ型授業のモデル構築－世田谷発の起業家教育－（経済学部：長山宗広先生）

今年から経済学部で新規開講した「アントレプレナーシップ養成講座」では、本格的な問題解決型学習（PBL：Project Based Learning)、実践体験型PBL授業に取り組みました。履修者は、経済学部２年～４年の160名。

第2弾のPBLは、株式会社アザイ・コミュニケーションズと連携して、5月～6月に実施しました。同社は、「STEM教育：科学（Science）、技術（Technology）、工学（Engineering）、数学（Mathematics）の4つの教育分野の総称」を世田谷区の主に小学生向けに展開する地域密着型企業です。同社はこれまで世田谷ものづくり学校（旧池尻中学校舎跡）に入居して、ロボット制作やプログラミング教室を実施していました。今年5月末にものづくり学校が閉鎖されたのを機に、本学近隣の駒沢3丁目へ移転し、「DOHSCHOOL（小学生向けデジタルものづくり教室）」をオープンしました。

PBLのテーマは、「デジタルを活用した、ものづくりフェスの開催に向けての提案」。14チーム（1チーム当たり11～12名）に分かれて、グループディスカッション・ブレーンストーミングや現地調査等を実施し、最終回にてチーム対抗のプレゼン大会まで開催しました。高専のロボコンのような専門性の高い大会ではなく、多様な学びと遊びが融合した敷居の低いものづくりフェスの提案が学生より数多く出されました。

第2弾のPBL（正課の授業）終了後、プレゼンした提案内容を実際に実現したいという有志（受講生のうち6名）が集まり、正課外の活動組織「世田谷デジタルものづくりフェス実行委員会」が組成されました。8月12日、第1回目（キックオフ）の実行委員会がDOHSCHOOLで開催され、本学経済学部商学科2年の熊田恭さんが実行委員長に選出されました。

ものづくりフェスは、オータムフェスティバルの日程に合わせ、11月5日・6日の2日間、本学駒沢キャンパス3号館の種月ホールにて開催することも決定しました。

PBL授業中のグループディスカッションで助言する久木田寛直氏
（株式会社アザイ・コミュニケーションズ代表取締役：中央）

すでに世田谷区（教育委員会および経済産業部）の協力をとりつけ、本学現代応用経済学科ラボラトリの後援など、ものづくりフェス開催に向けての実施体制の充実が図られています。世田谷区の小学生（親御さんを含む）が2日間で延べ1000人くらい参加するような大イベントの開催実現を目指しています。実行委員会では、残り2か月、急ピッチで準備を進めていきます。

〔世田谷区部門〕

地域プロジェクトによる市民育ち―用賀と深沢における参加型調査研究（文学部：李妍焱先生）

8月末開催の「用賀サマーフェスティバル」に向けて、着々と準備を進めています。夏休みに入ったことで皆で集まって話し合いにくくなり、新型コロナウイルスへの対策や資金難に追われて苦戦していますが、現地の雰囲気を感じながら取り組んでいます。私たち自身も「どこまでできるのか」楽しみにしながら、メンバーとの仲も少しずつ深めつつ、無事に開催できるよう頑張ります。

一方、「ふかさわの台所」では、「おかしのまちづくり」「大人の語りBAR」という2つのイベントを開催しました。

前者では、小学生が楽しみながら、お菓子で家や町を作り、後者では、平和学の教授である暉峻先生とゼミの李先生、地域の大人たちが社会問題について語り合いました。両イベントは、台所を知らなかった人へのアピール、そしてゼミと地域をつなげるきっかけになったので、今後とも継続していく予定です。

〔世田谷区部門〕

動画制作を通じた「せたがやの居場所」発信プロジェクト（経済学部：松本典子先生）

8月10日にオンライン・ワークショップを行いました。まず「NHKサービスセンター」の星野さんから、動画リポート制作における全体の流れを説明していただきました。つぎに、7月2日に開催された「せたがや居場所サミット」の参加団体から、ゼミ生が各自、気になった居場所について意見を出し合いました。その中から取材対象を決め、グループ分けを行いました。

今後は、各団体にグループごとにアポイントメントを取って、ご協力いただけるのかどうかなど確認をし、事前取材などを行った上で、最終的な動画制作先を決定する予定です。また同時進行で、星野さんから「企画書の書き方」をレクチャーしていただき、各グループで取材先への企画書を作成していきます。

〔産官学連携部門〕

産学連携による新商品開発と新たな販路開拓の実践プロジェクト（経済学部：吉田健太郎先生）

私たちはフィリピンで日系中小企業の販路開拓支援を行っている「プライムマンパワージャパン」様と連携し、フィリピン人材の日本市場を開拓するプロジェクトを行っています。このプロジェクトを通じて、外国人の活用による日本中小企業の「内なる国際化」の推進や「労働者不足問題の解消」を目指し、事業を進めています。また、日本で働きたいと考えるフィリピン人材の送り出しを通じて、双方の異文化交流が活発化し、両国の良好な関係構築の橋渡しの一助となるものと考えています。

そして現在、プロジェクト実施のために連携企業様のフィリピン拠点にて、海外インターン生という形で人材派遣のためのマーケティングプロモーションを担当しています。現在は連携企業の強み、弱みの理解、外国人労働者活用市場の実態やニーズの理解を進めており、今後は外国人材の採用に成功した企業へのヒアリング等の活動をもとに戦略を立てプロモーションを行う予定です。

〔産官学連携部門〕

難民を知り、共生へ　~クルド人に学ぶ~（法学部：三竹直哉先生）

現在、オータムフェスティバルにて『東京クルド』の上映会に向けて、他大学の難民支援を行っている団体様やクルド支援を行っている団体とコンタクトを図っています。夏季休業期間は外部の団体様との交流の他に、実際にクルド料理を自ら作り食を通してクルド文化を知る試みも計画しています。

私たちはオータムフェスティバルでは対面での開催に向けて準備を進めております。しかし、今年も新型コロナウイルスによる影響でオンラインのみの開催になった場合に備え、オンライン上でも上映できる映画を選定中です。オンライン上映会になった場合は『東京クルド』ではなくなってしまいますが、「難民を知り、共生へ」というテーマを軸に難民の方々の現状を発信していきます。

〔社会連携センター：プロジェクト見学レポート〕

経済学部：松本 典子先生のプロジェクトの活動を見学しました。

世田谷区部門で採択された、経済学部の松本 典子先生のプロジェクトが7月2日に行った「第3回 せたがや居場所サミット」を見学しました。

この取組みは2018年に第1回が開催され、2019年に第2回のサミットが開催されました。その後、新型コロナウイルスの影響により対面開催が2年間延期となっていましたが、今回第3回が駒沢キャンパスの種月ホールで開催されました。

今回も、世田谷区内でいろんな人の「居場所」をつくってきているたくさんの団体の皆さんが一堂に会し、各団体の活動紹介を通じて、人と人、活動と活動の「つながり」を広げていました。

各団体によるパネル展示のほか、トークセッションのコーナーでは、松本 典子 先生が司会となり、同じく今年度の駒大生社会連携プロジェクトの世田谷部門で採択された李 妍焱 先生がコメンテーターとして参加されました。トークセッションには保坂 展人 世田谷区長も登壇され、各団体の代表者の皆様と「コロナ後の居場所のつくり方」というテーマについて意見交換を行いました。

世田谷区内には、いろんな思いをもって、いろんな人の居場所づくりを行っている方々がおられ、本学も今回そういった皆様の集まる場所として貢献できたことをうれしく思います。

トークセッション

トークセッション司会
松本 典子 先生

トークセッション
コメンテーター
李 妍焱 先生

しなやかな、意思。
駒澤大學

発行：駒澤大学
学術研究推進部
社会連携センター
（2022.08月）